

1. 試験目的 土壌改良効果の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市種市	(2) 実施農家	小山内 睦雄
(3) 実施支店	北支店	(4) 担当者	長尾 紀夫
(5) 概要			
品種	青天の霹靂	播種量	200 g/箱
播種日	4月29日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月27日
移植日	5月29日	活着状況	普通
中干し	7月8日	落水日	8月30日
収穫始め	9月10日		

(6) 試験構成

試験面積 50 a ( 試験区 30 a 対照区 20 a )

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
みつパワー	5月27日	100kg	マンガン 他		
混合りん肥	5月27日			100kg	リン酸 他
合計		100kg		100kg	

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)
試験	18.1	4.0	3.3	33.2	7.2	4.8	38.3	13.1	6.6	58.9	15.7	8.6
対照	17.7	4.2	3.2	36.9	5.6	5.0	38.3	10.1	6.7	58.5	14.0	8.5
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	くず米重 (kg/10a)	収量比 (%)	食味値	タンパク (%)	胴割率 (%)
			稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)							
試験	7月12日	7月29日	74.6	21.3	17.2	707	667	39.3	112%	75	5.9	4.7
対照	7月12日	7月29日	74.5	20.6	16.7	645	597	47.6	—	75	5.9	3.4

(2) 農家の意見

散布しやすく、生育もほとんど差が無かったが、収量が増加しているのいいと思う。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2) 評価の理由

施用効果	収量が増加増加したため
実用性	有り
使いやすさ	粒状なので散布しやすい

(3) その他特記事項

1. 試験目的 土壌改良効果の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市門外	(2) 実施農家	一戸 松治郎
(3) 実施支店	弘前中央支店	(4) 担当者	泉 荘
(5) 概要			
品種	青天の霹靂	播種量	140 g/箱
播種日	4月10日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月10日
移植日	5月15日	活着状況	良好
中干し	6/25～7/10	落水日	8月20日
収穫始め	9月7日		

(6) 試験構成

試験面積 56 a ( 試験区 30 a 対照区 26 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)		対照区(kg/10a)	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
みつパワー	4月21日	60kg	Si : 25.1%他		
スーパーケイ酸	4月21日			37.5kg	Si : 40%他
合計		60kg		37.5kg	

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本)	葉齢 (葉)
試験	31.7	4.0	6.0	41.9	9.6	7.4	57.0	11.7	8.7	72.4	12.0	10.4
対照	22.4	4.1	5.7	40.9	6.3	7.2	49.4	11.5	8.3	68.1	11.0	9.9
	幼穂 形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	くず米重 (kg/10a)	収量比 (%)	食味値	タンパク (%)	胴割率 (%)
			稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)							
試験	7月3日	7月28日	71.8	17.4	11.7	682	673	9	118%	75	6.1	8
対照	7月3日	7月28日	69.6	18.7	11.2	595	570	24.3	—	79	5.6	8

(2) 農家の意見

全体的に見て試験区と対照区に生育の違いは感じられない。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区より収量が多かった。
実用性	対照区と同等。
使いやすさ	対照区と同等。

(3) その他特記事項

1. 試験目的

肥効確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所

弘前市種市

(2) 実施農家

小山内 章

(3) 実施支店

弘前北支店

(4) 担当者

長尾 紀夫

(5) 概要

品種

青天の霹靂

播種量

200 g/箱

播種日

4月24日

苗の種類

中苗 ・ ハウス

ほ場の土性

埴壤土

代かき日

5月22日

移植日

5月25日

活着状況

普通

中干し

6月25日～

落水日

8月25日

収穫始め

9月11日

(6) 試験構成

試験面積

30 a

(

試験区

20 a

対照区

10 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)			
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K
基肥	青天の霹靂一発505	40	6.0	8.0	6.0				
	つがるロマン								
追肥									
	NK25号					5	1.0		1.5
合計		40	6.0	8.0	6.0	55	6.0	7.5	6.5

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	19.2	3.6	4.1	35.5	6.2	6.0	41.1	11.5	7.4	63.6	12.0	9.4
対照	19.9	5.4	3.8	33.5	9.8	5.8	40.2	13.7	7.3	60.8	13.7	9.5
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月14日	7月31日	73.2	20.3	18.2	652	634	17.5	120%	78	5.6	11.3
対照	7月14日	7月30日	71.5	19.7	17.1	530	530	17.6	—	82	5.4	5.4

(2) 農家の意見

従来行っている栽培より、収量が増加し追肥作業が無くなったので良い。来年も、一発は使用したい。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2) 評価の理由

施用効果

有り

実用性

有り

使いやすさ

有り

(3) その他特記事項

1. 試験目的 肥効確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市新里	(2) 実施農家	三浦 隆彦
(3) 実施支店	大鰐支店	(4) 担当者	寺田 佳洋
(5) 概要			
品種	青天の霹靂	播種量	150 g/箱
播種日	4月17日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月17日
移植日	5月20日	活着状況	良好
中干し	6月29日	落水日	9月1日
収穫始め	9月10日		

(6) 試験構成

試験面積 40 a ( 試験区 20 a 対照区 20 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)				
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K	
基肥	青天の霹靂一発505	5月5日	40	6.0	8.0	6.0				
	マップ264号	5月5日				40				
追肥					—					
	NK25号	7月8日								10
合計			40	6.0	8.0	6.0	50	5.8	6.4	7.1

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	22.3	4.3	4.2	32.2	8.5	7.0	47.9	16.5	8.9	68.8	16.1	10.6
対照	24.8	4.5	4.1	36.4	11.1	7.5	43.1	15.4	8.6	70.3	16.2	10.5
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月12日	8月1日	79.8	19.3	17.0	593	573	20.3	1.099808061	77	5.8	3.4
対照	7月12日	8月1日	75.4	17.8	15.2	534	521	13.5	—	79	5.6	4.4

(2) 農家の意見

肥料区・対照区ともに大きな差はなかった。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	4	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区に比べ収量は多かったため。
実用性	対照区と同等のため。
使いやすさ	追肥の手間はなかったため。

(3) その他特記事項

7/6葉色診断値  
試験区35.7 (新里) 対照区36.7 (門外)

1. 試験目的

肥効確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所

弘前市藤代

(2) 実施農家

佐藤 光二

(3) 実施支店

弘前西支店

(4) 担当者

松岡 巧子

(5) 概要

品種

はれわたり

播種量

200 g/箱

播種日

4月20日

苗の種類

稚苗 ・ ハウス

ほ場の土性

埴壤土

代かき日

5月14日

移植日

5月19日

活着状況

良好

中干し

6月30日～7月10日

落水日

8月30日

収穫始め

9月15日

(6) 試験構成

試験面積

72 a

(

試験区

35 a

対照区

37 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)				
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K	
基肥	てまいらずA	5月19日	70	10.5	14.0	10.5				
	一発あど楽	5月19日					50	10.0	7.5	7.5
追肥										
合計			70	10.5	14.0	10.5	50	10.0	7.5	7.5

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	31.2	5.7	5.1	41.8	17.3	7.2	54.6	33.0	8.4	73.6	34.5	10.1
対照	28.9	4.6	4.2	40.7	12.9	7.3	49.1	23.9	8.5	75.5	24.5	10.4
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月8日	7月28日	86.1	18.5	32.3	717	687	29.5	101%	76	6	5.6
対照	7月8日	7月28日	83.1	19.4	25.8	694	678	16.2	—	80	5.7	7.2

(2) 農家の意見

特に問題なく使用できた。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果 対照区と同等のため

実用性 対照区と同等のため

使いやすさ 対照区と同等のため

(3) その他特記事項

1. 試験目的

肥効確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所

弘前市森山

(2) 実施農家

三上 豊

(3) 実施支店

大鰐支店

(4) 担当者

寺田 佳洋

(5) 概要

品種

はれわたり

播種量

150 g/箱

播種日

4月17日

苗の種類

中苗 ・ ハウス

ほ場の土性

埴壤土

代かき日

5月17日

移植日

5月20日

活着状況

普通

中干し

6月28日

落水日

9月4日

収穫始め

9月19日

(6) 試験構成

試験面積

60 a

(

試験区

30 a

対照区

30 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)				
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K	
基肥	てまいらずA	5月7日	60	9.0	12.0	9.0				
	一発あど楽	5月7日					40	8.0	6.0	6.0
追肥										
合計			60	9.0	12.0	9.0	40	8.0	6.0	6.0

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	18.8	4.4	4.2	32.7	9.4	6.9	44.7	15.6	8.2	65.8	15.1	9.9
対照	17.8	4.2	3.9	32.5	8.9	7.0	45.1	16.1	7.9	67.6	15.3	9.5
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月11日	7月31日	71.2	17.5	15.6	460	449	10.7	1.025114155	77	6.0	4.2
対照	7月11日	7月31日	71.6	17.8	15.8	458	438	10.6	—	72	6.2	4.3

(2) 農家の意見

同等

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果

同等

実用性

同等

使いやすさ

追肥の手間はなかった。

(3) その他特記事項

1. 試験目的 肥効および肥料殻対応の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市境関	(2) 実施農家	奈良岡 徹
(3) 実施支店	弘前中央支店	(4) 担当者	泉 荘
(5) 概要			
品種	まっしぐら	播種量	140 g/箱
播種日	4月15日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月14日
移植日	5月19日	活着状況	良好
中干し	6月30日～7月15日	落水日	8月25日
収穫始め	9月20日		

(6) 試験構成

試験面積 40 a ( 試験区 20 a 対照区 20 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)						
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K			
基肥	はれわたり専用肥料	4月25日	93	8.4	7.0	4.7						
	高度化成オール14	4月25日										
追肥	NK25号	7月15日	20	2.0	0.0	3.0						
	NK25号	7月15日										
合計			113	10.4	7.0	7.7	80	10.4	8.4	11.4		

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	23.9	3.5	5.6	32.5	5.9	7.2	43.1	13.9	8.9	67.6	18.5	10.9
対照	19.0	4.0	4.9	31.5	4.9	6.5	40.8	10.2	8.4	60.7	14.3	10.2
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月10日	7月31日	84.6	19.8	22.7	538	521	16.7	88%	81	5.4	4.5
対照	7月10日	7月31日	83.1	19.1	15.8	621	592	28.5	—	79	5.7	2.3

(2) 農家の意見

試験区、対照区とも生育に差は感じられない。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	2	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区より収量はやや少ない。
実用性	対照区と同等。
使いやすさ	対照区と同等。

(3) その他特記事項

1. 試験目的 肥効および肥料殻対応の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	藤崎町中島	(2) 実施農家	成田 昇
(3) 実施支店	藤崎支店	(4) 担当者	鳴海 清志郎
(5) 概要			
品種	まっしぐら	播種量	185 g/箱
播種日	4月5日	苗の種類	中苗 ・ 折衷苗代
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月11日
移植日	5月16日	活着状況	良好
中干し	6月27日～7月23日	落水日	8月26日
収穫始め	9月13日		

(6) 試験構成

試験面積 60 a ( 試験区 30 a 対照区 30 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)				
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K	
基肥	はれわたり専用肥料	4月21日	93	8.4	7.0	4.7	/			
	高度化成オール14	4月21日	/							
追肥	NK25号	7月13日	20	2.0	0.0	3.0	/			
	NK25号	7月13日	/							
合計			113	10.4	7.0	7.7	80	10.4	8.4	11.4

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	33.9	5.0	5.2	41.1	9.2	6.9	53.8	16.2	8.4	72.7	18.9	10.1
対照	32.6	4.6	5.0	40.4	8.8	6.5	51.2	15.2	8.4	71.5	18.0	9.9
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月5日	7月30日	83.4	18.7	19.8	684	665	16.7	104%	78	5.7	5.3
対照	7月5日	7月30日	83.1	17.7	18.9	659	640	15.8	—	80	5.5	5.6

(2) 農家の意見

あまり差は感じられなかった。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区と同等。
実用性	対照区と同等。
使いやすさ	対照区と同等。

(3) その他特記事項



1. 試験目的 肥効および肥料殻対応の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市新里	(2) 実施農家	福士 憲裕
(3) 実施支店	弘前中央支店	(4) 担当者	泉 荘
(5) 概要			
品種	まっしぐら	播種量	140 g/箱
播種日	4月15日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月14日
移植日	5月19日	活着状況	良好
中干し	6月27日～7月11日	落水日	8月25日
収穫始め	9月18日		

(6) 試験構成

試験面積 37 a ( 試験区 18.5 a 対照区 18.5 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)			
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K
基肥 水稻春UF一発	4月28日	110	11.0	11.0	11.0				
基肥 水稻春一発	4月28日								
追肥									
合計		110	11.0	11.0	11.0	110	11.0	11.0	11.0

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	31.6	4.0	5.1	41.1	6.1	6.7	47.2	12.8	8.5	70.4	17.4	10.3
対照	34.8	4.0	5.3	40.8	7.8	7.1	47.9	15.8	8.9	72.5	17.8	10.7
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月10日	7月31日	77.9	15.7	18	639	620	18.9	114%	82	5.4	6.1
対照	7月10日	7月31日	77.7	17.5	19.7	553	542	11.5	—	75	6.1	5.1

(2) 農家の意見

全体的に見て違いは感じられなかった。来年も試験を行いたい。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区よりやや収量が多かった。
実用性	対照区と同等。
使いやすさ	対照区と同等。

(3) その他特記事項

1. 試験目的 肥効および肥料殻対応の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市土堂	(2) 実施農家	山本 修平
(3) 実施支店	弘前西支店	(4) 担当者	松岡 巧子
(5) 概要			
品種	青天の霹靂	播種量	130 g/箱
播種日	4月15日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月15日
移植日	5月20日	活着状況	良好
中干し	6月25日～7月8日	落水日	8月30日
収穫始め	9月10日		

(6) 試験構成

試験面積 45 a ( 試験区 25 a 対照区 20 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)						
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K			
基肥	水稻春UF一発	5月3日	80	8.0	8.0	8.0						
	水稻春一発	5月3日										
追肥												
合計			80	8.0	8.0	8.0	80	8.0	8.0	8.0		

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	28.6	4.5	5.2	40.8	13.1	7.2	46.7	19.0	8.6	70.4	20.0	10.5
対照	27.8	4.5	5.1	37.0	13.1	7.2	44.5	16.5	8.5	70.1	18.0	10.4
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月3日	7月28日	75.3	18.6	16.5	672	651	21.6	113%	75	6	7.1
対照	7月3日	7月28日	77.2	18.2	14.2	588	576	12.2	—	80	5.6	8.1

(2) 農家の意見

特に問題なく使用できた。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区と同等のため
実用性	対照区と同等のため
使いやすさ	対照区と同等のため

(3) その他特記事項

1. 試験目的 肥効および肥料殻対応の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市藤代	(2) 実施農家	佐藤 光二
(3) 実施支店	弘前西支店	(4) 担当者	松岡 巧子
(5) 概要			
品種	まっしぐら	播種量	200 g/箱
播種日	4月15日	苗の種類	稚苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月14日
移植日	5月19日	活着状況	良好
中干し	6月30日～7月10日	落水日	8月30日
収穫始め	9月12日		

(6) 試験構成

試験面積 40 a ( 試験区 20 a 対照区 20 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)			
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K
基肥 SCU入り水稻一発468(仮)	5月19日	85	11.9	13.6	6.8				
一発あど楽	5月19日					60	12.0	9.0	9.0
追肥									
合計		85	11.9	13.6	6.8	60	12.0	9.0	9.0

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	32.9	4.6	5.2	43.6	16.1	7.3	56.8	26.9	8.9	53.2	29.3	10.0
対照	30.4	4.8	5.2	39.8	14.1	7.2	48.2	21.4	8.6	72.4	24.8	10.5
	幼穂形成期	出穂期	8月31日			粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)							
試験	7月6日	7月29日	84.3	17.9	24.3	739	685	53.8	100%	85	5.2	3.2
対照	7月6日	7月29日	75.7	19.8	23	720	685	35.1	—	79	5.8	7.7

(2) 農家の意見

特に問題なく使用できた。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区と同等のため
実用性	対照区と同等のため
使いやすさ	対照区と同等のため

(3) その他特記事項

1. 試験目的 肥効および肥料殻対応の確認。

2. 試験内容

(1) 実施場所	弘前市新里	(2) 実施農家	福士 憲裕
(3) 実施支店	弘前中央支店	(4) 担当者	泉 荘
(5) 概要			
品種	まっしぐら	播種量	140 g/箱
播種日	4月15日	苗の種類	中苗 ・ ハウス
ほ場の土性	埴壤土	代かき日	5月14日
移植日	5月19日	活着状況	良好
中干し	6月27日～7月11日	落水日	8月25日
収穫始め	9月18日		

(6) 試験構成

試験面積 35.5 a ( 試験区 17 a 対照区 18.5 a )

資材名	施用日	試験区(kg/10a)				対照区(kg/10a)			
		施用量	N	P	K	施用量	N	P	K
基肥 SCU入り水稻一発468	4月28日	80	11.2	12.8	6.4				
水稻春一発	4月28日					110	11.0	11.0	11.0
追肥									
合計		80	11.2	12.8	6.4	110	11.0	11.0	11.0

3. 試験結果

(1) 生育状況

	6月10日			6月20日			6月30日			7月15日		
	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)	草丈(cm)	茎数(本)	葉齢(葉)
試験	27.4	3.9	5.2	37.5	6.3	6.9	45.8	14.6	8.4	67.1	15.6	10.4
対照	34.8	4.0	5.3	40.8	7.8	7.1	47.9	15.8	8.9	72.5	17.8	10.7
幼穂形成期	出穂期	8月31日				粗玄米重(kg/10a)	精玄米重(kg/10a)	くず米重(kg/10a)	収量比(%)	食味値	タンパク(%)	胴割率(%)
		稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/株)								
試験	7月10日	7月31日	75.1	17.9	15.8	736	708	27.2	131%	79	5.7	4.1
対照	7月10日	7月31日	77.7	17.5	19.7	553	542	11.5	—	75	6.1	5.1

(2) 農家の意見

試験区は登熟期後半でも葉色が落ちにくかった。また、やや倒伏が見られた。試験区は倒伏しやすい圃場なので来年は圃場を入れ替えて試験してみたい。

4. 評価

(1) 資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	3	3

(2) 評価の理由

施用効果	対照区より収量は多かった。
実用性	対照区と同等。
使いやすさ	対照区と同等。

(3) その他特記事項